

ゼネコン 新時代

New Era of General Contractors

特集担当主査：坂上清明
特集企画担当：島谷学、鈴木三馨、高橋敏樹、土屋雅徳、松川剛一、三輪徹、山村正人、山本和範

A bright light has shone on the construction market where the severe situation has continued as construction investment has decreased to half of the amount compared to the peak period. However, the construction industry is facing various issues, such as low profitability due to severe price competition in the mature construction market, human resources shortage due to aging of technicians and the loss of young people from the construction industry, and productivity improvement. Instead of staying on the course in the conventional way, the construction industry has to take on some new challenges such as productivity improvement by using mechanized construction and Information

and Communication Technology (ICT), introduction of new site management procedures, cross-industry collaboration, and initiatives toward coexistence with region and environment. In order to open up a new era, it is indispensable for General Contractors to make innovations by creating new values and services that meet the various needs of individual customers. Entitled "New Era of General Contractors", this special issue focuses on General Contractors, the main players of construction in the construction market, and introduces the various efforts general contractors are making towards the coming new era from two perspectives "changing site" and "changing market".

日本の建設投資額は1992年度の84兆円をピークに減少の一途をたどり、約半減するまで落ち込みを見せた。現在、東日本大震災からの復興、防災・減災等の国土強靱化、老朽化が進むインフラの維持管理・更新、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた東京再生、リニア中央新幹線建設等のビッグプロジェクトの始動など、厳しい状況が続いてきた建設市場に明るい兆しがある。

一方で、成熟した建設市場における厳しい価格競争に起因する低収益性、技術者の高齢化および若者の建設業離れに伴う人材不足、他産業と比較して遅れている生産性の向上など、建設業は多くの課題を抱えている。また、「ポスト2020」と言われるように、今後の建設投資に関する見通しは不透明な状況にあり、ゼネコン各社にとって中長期的なビジョンの策定が急務となっている。

このような状況のなか、ゼネコンの建設ビジネスは、従来の延長線上の未来にとどまらず、機械化施工やICT技術投入による生産性の向上、新しい現場マネジメント手法の導入、異業種との連携や地域・環境との共存に向け

た取り組み等を通じて、周辺市場における事業領域拡大に向けた挑戦を余儀なくされている。ゼネコンが新しい時代を切り拓くためには、イノベーションやマネジメントにより顧客ことの多様なニーズに適合する新たな価値(サービス)を創造する必要があると考えられる。新しい取り組みを行うためには、将来の担い手確保、育成問題が重要な情報発信を行い、業界全体として建設業界への誤解・不信を払拭し、一人でも多くの建設ファンを生み出していく活動が必要であると考えられる。

本特集記事では、現在建設市場における施工部分のメインプレーヤーであるゼネコンに焦点を当て、「ゼネコン新時代」と題し、来るべき新しい時代に向けたゼネコン各社のさまざまな取り組みを幅広く紹介する。

まず、基調論文では谷口博昭氏(芝浦工業大学マネジメント研究科客員教授)に「ゼネコンのイノベーション」と題し、現状のゼネコンに対する問題提起と今後の方向性について論じていただいた。

基調論文を受ける形で、ゼネコン各社の土木系トップ経営層による「将来

展望」をテーマにした座談会を開催した。各社トップが今後の業界をどのように見ているか、またどのように方向づけていこうと考えているかについて、直接聞いてみたいという気持ちで企画立案した。各社トップの業界に対する熱い思いがひしひしと伝わり、担当編集委員一同がその迫力に圧倒された。

続いて、「変わる現場」「変わる市場」の二つの切り口で各社の取り組み事例の紹介をご報告いただいた。「変わる現場」では、生産性向上に向けた取り組みや技術開発および新しい現場マネジメント手法について紹介する。「変わる市場」では、脱請負を念頭に、周辺市場における事業領域拡大への挑戦事例と来るべきインフラ大更新時代にに向けた技術開発事例を紹介する。

「新しい時代」への道のりを歩み出そうとしているゼネコンの今と未来がぎゅっと詰まった特集となった。本特集記事がゼネコンのみならず、大学、コンサルタント、その他異業種を巻き込んだ形でさまざまなイノベーションを生み出し、土木が担う新しい社会基盤整備の展開につながる一助となれば幸いである。

題字：綵鳳